



広報からのお知らせ

- P1 広報からのお知らせ
P2 仲間たちの近況報告 (1)
1 班 高城 光一
2 班 近藤 フミ子
P3 仲間たちの近況報告 (2)
3 班 九津見 明
4 班 宮阪 信次
P4 私の玉手箱 永野 徹
P5 専任幹事ご挨拶 鈴鹿 絹代
班長の思い 奥 久美子
P6 春の妖精 ウォッチング
遊上 真一
P7 書道コーナー 今本 芙佐子
P8 絵画コーナー 山下 勝弘
P9 写真コーナー 福島 いすみ
P13 短歌・俳句・川柳コーナー
山上 恵子 宮澤 富美雄

自然と文化だよりの今後の編集方針

広報専任幹事 原 司

広報の提案について班会議で話し合っていたいただいた結果を参考に当面次のとおり運用させていただくこととしました。

- 1 年4回の発行を維持する
- 2 科員相互のコミュニケーションツールとしての位置づけを確認し、共有する
- 3 仲間たちの近況報告は、各班年2回に減らす
- 4 私の玉手箱は、活動記録免除科員を中心に広報から執筆を依頼する(辞退は自由)
- 5 絵画、樹木ウォッチング、短歌・俳句・川柳等は現在お引き受けいただいている方に無理のない限り引き続きお願いする
- 6 写真コーナーは、従前どおり各班から年1回の担当者を選出いただくが、困難な場合は休載または自由投稿による
- 7 いずれのコーナーも自由投稿を受け付け、ストックする
- 8 氏名は本名を基本とするが、希望によりイニシャルやペンネームも可(科員間には特定可能な措置を講じていただく)

◇自然と文化だより◇

DEIもSDGsも消えていく？

米日の名だたる大企業が次々とつい先ごろまで盛んにいばって宣伝していたDEIやSDGsを待ってましたとばかりにかなぐり捨てている。トランプを恐れているように見えるが、実はほっとしているのだという見方もある。もともと本気でなかったということか。

私達はこれからの消費を選択する上でもこの事実を忘れないでいたいものです。

tsukashara

廃刊の意見も複数ありましたが、やめてしまうと二度と復活できないとして存続意見が強く、発行回数を減らすのも記事の陳腐化が避けられないので、現状どおり年4回発行としました。

なんのために発行するのか存在意義を確認して共有すべしとの班意見があり、従前は相互のコミュニケーションツールとして活用されていたとの原点に立ち返り、これを共通認識として確認したいと思います。科員一人ひとりの感じ方や日常を知り、互いの理解を深め親睦を図るツールとして今のところ他に代わるものはありません。

3以下は、負担感の軽減と参加の自由度、諸先輩の知識経験の伝承の意義を考慮しました。

8は、今後懸案となるホームページの本部ドメインへの移行とも関連し、新サイトの公開の範囲を含めさらに検討が必要です。

多数の貴重なご意見ありがとうございました。親しみやすく充実した紙面のため、今後ともよろしくお願いいたします。



スマホ、囲碁、自治会史

1 班 高城 光一

投稿するような面白いネタはないのですが紙面を埋めるために書き留めてみました。

その1. スマホ嫌いの私が今年になってスマホを買い換えました。

電話機能としてのみスマホを使ってきた希少民族の私がやっとスマホを買い換えました。当科では必須であることとレストランの注文もスマホ注文となり今後はスマホ嫌いでは済まされないとやっと諦めがついたからです。いざ使ってみると新しいヤツは基本操作から変わっており、ゼロからスマホ教室のお世話になる始末です。まずは散歩に持参し庭木などの名前を覚えながら少しずつ馴染んでいます。

その2. 囲碁の勉強を再開しました。

囲碁は入り口がかなり難しく覚えたての頃は案外本を読んで勉強しましたが 中級になってからはもっぱら酒を飲みながらやっていました。三津寺のおでん屋でゆったり 私の本町の事務所へ遊びに来た友人と碁盤を囲む程度でした。本町の事務所を引き払ってからは殆どやる機会はありませんでした。それが2年ほど前 ある人からプロ棋士が主催する囲碁教室を紹介され参加してみるとこれが面白いのです。プロのテクニックの分厚さや戦術面の考え方を直接教わることは新鮮で学習意欲を刺激されるのです。アマ5段を目指し毎日詰碁の本を読んでいます。

その3. 地元自治会史を4人で編纂しました。

隣町の自治会史に刺激を受け「自治会50年史」の編纂にチャレンジしました。物故者も多く資料集めに苦労しましたが約10か月かけて何とかほぼ完成しました。自治会定例会でその概要を披露し 同時に製本代30万を来季予算に計上するよう要請しました。定例会での空気は「よくやってくれた!」という雰囲気を感じましたが執行部との詰めの話になると「なぜ自治会に事前報告しなかったのか」とか「事業計画書が出ていない」など否定的な意見が浮上し 結局来季予算化は見送られました。喧嘩する相手ではないためどう対応するか思案中です。しかし、記録に残せたことは自治会の財産になると自負しています。

ヤッコソウに会いたくて!

2 班 近藤 フミ子

2024 年 11 月 23 日

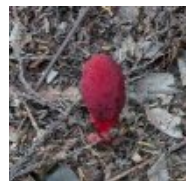
妙見山(徳島県海陽町奥浦ピアカイツ東側)

クサヤツデ(キク科クサヤツデ属やや大型多年草) ヤッコソウ(ヤッコソウ科シイノキ等の根に寄生) ヤッコソウ群生です。最初からワクワクです。



杉尾神社(徳島県海陽町櫛川の農道の先)

ツチトリモチ(ツチトリモチ科ミズバイ(ハイノキ属)の根元に寄生、花はすべて雌花、種子は単為生殖で作られる) モモイロカンアオイ、ルリミノキなど



鈴ヶ峰も目標にしていたけれどあきらめてもらいながら(Mさんごめん!)車に乗っているととにかく違和感が、大阪や六甲山の山やまは色とりどりののに、この辺の山々は緑一色、常緑広葉樹?

金剛頂寺(高知県室戸市西国八十八箇所二十六番札所) ヤッコソウ群生、タイミンタチバナ、ミズバイ(杉尾神社のツチトリモチがミズバイの根元にあったのに樹木が高くて葉っぱまでわからなかったというよりツチトリモチに夢中だった) ヒロハノミズバイ(実がたくさん落ちていた)

24 日ここも楽しみにしていた伊尾木洞(高知県安芸市) シダの宝庫 ホウビシダ シロヤマゼンマイ ノコギリシダ クリハラシダ マツザカシダ イワヒトデなど 40 種類ほどあるらしい(観光案内所でも牧野植物園でも全部は教えてくれなかった最もめずらしいシダがあると思います) もっとシダの勉強をしなくては。2時間だけど足りない、シダだけではなく草本もありなので。



徳島の道の駅?で食べた徳島ラーメンが和歌山ラーメンに少し似ていてとっても美味しかった満足満足(近藤は和歌山市出身)

楽しくて気持ちよかった徳島、高知の旅でした。同行者様達これからもよろしくお願いします。

社会貢献20年

3班 九津見 明

私が設立2年目の「自然文化科」に入科してからこの3月末で丸20年になる。人生の大きな節目を迎えたと思っている。小学校から大学卒業までの期間よりも長く自然と文化科に在籍したことになる。瞬く間に過ぎ去った20年を振り返って見れば、前半の10年間は苦労が多く、体が2つあっても足りないくらい多忙であった。しかし後半の10年間では、科の活動を通じて高齢者生活を楽しめたと思っている。この紙面を借りて、前半の10年間の活動の一端を振り返る。

私の入科と同時に、大阪ガスグループ福祉財団から「健康事業」の一環として高齢者を対象とした「自然観察会」を実施して欲しいという依頼が私に舞い込んだ。その当時私は、高等科在籍中に大学当局から依頼された、「地球環境生態系講座の開設準備」に忙殺されていた。また、「ならなぎ」の創設にも拘わっていた。

しかし、発足して2年目の自然と文化科は、「人の生活が自然に及ぼす影響、人と自然との調和」が研究目標であった。まだ「社会貢献」という命題は取り込んでいなかった。当時、科員数は28名であったが、科員の総意で「シニア自然観察会」に取り組むことになった。私のそれまでの人生では、「社会貢献」という分野には疎遠であったが。

翌年には新メンバーが加わって総勢48名に増え、その第1回観察会は2006年6月、生野区老人福祉センター32名を対象に、生野区御勝山南公園で実施した。13名の科員が参加、大好評であった。お土産のモックンも喜ばれた。参加者の喜ばれた姿を見て我々はこの行事は絶対に続けようと思った。この年には、更に武庫川河川敷、涉成園、鶴見緑地公園等でも観察会を行った。「お客様希望の日に希望の場所で実施」する趣旨は、その後も好評である。

爾後、この観察会は年に数回実施しており、以後19年間で約70回の実績がある。近年はリーダーのなり手が少ないようだが、社会への貢献の良い機会なので、今後も積極的な参加を期待したい。これからの私の余命は、自然と文化科在籍期間より短いだろう。今後、何が出来るか？ 何をすべきか？ まだ何か貢献できるだろうか？ 現在の私の人生テーマである。

汎用AI時代をどう生きるか？

4班 宮阪 信次

1. はじめに

2008年、私は「自然と文化科」メンバーになりました。当時、自然と文化だよりも「スローなユビキタスライフ」を投稿したことがあります。要約は、「2025年頃ユビキタス情報社会が到来、自分らしく生きるにはスローライフしかないという内容でした。

2. ユビキタス社会とは（現在的にはIoT）

あらゆるモノに、あらゆる場所に、チップを組み込んで、情報のネットワーク化を行い、ユビキタスコミュニケーターを使って情報やサービスをいつでもどこでも利用できる社会といえます。まさに現在の状況がそうになっています。

3. 汎用AI時代の到来・・・身近にきています

2018年頃から、汎用人工知能（AGI: Artificial General Intelligence）が脚光を浴びています。AGIとは人間と同じように多様なタスクを理解し、処理する能力を持つ人工知能のことです。汎用AIが実現すれば、ビジネス、医療、教育など多くの分野で革新的な変化が期待されるそうです。AIが人間を凌駕するともいわれています。2035年頃汎用AI時代が到来するといわれています。

4. 自分らしく生きるには「寄り添いあう社会！」

生活を便利にしてくれる筈の情報通信技術が私たちを逆に震撼させています。産業のスピードに、個人の生活のスピードが飲み込まれて行っているのではないのでしょうか。「高速道路」を必死にしがみついて生きているようなものです。「寄り添いあう社会」はそこに住んでいる人たちが「人々が生きて活きたいと思う社会」を自分らで、寄り添いあいながら作り上げていくことが重要です。

5. 結語

自然と文化科を卒業するにあたり、投稿しました

（参考文献）

- 1) 関根千佳：スローなユビキタスライフ、地湧社、2005
- 2) エリオット・トフラー：、第3の波、中央公論社、1995
- 3) ビル・ゲイツ：ビルゲイツ未来を語る、アスキー、1995
- 4) 坂村健：ユビキタスとは何か、岩波新書、2007
- 5) 宮阪信次、「スローなユビキタスライフ」、2008

素人のウイルス考「新型コロナウイルス禍を顧みて」

4 班 永野 徹

(1)はじめに（鉄は熱い中に鍛えよ）

生命の歴史を振り返ると常にウイルスの脅威に曝されてきたと言える。今回の新型コロナウイルス（COVID19）は2019年12月に中国武漢で発生し2020年1月には世界中に拡散して100年前のスペイン風邪以来のパンデミックとなった。特に日本は、比較的新しいSARS(2002)、MERS(2012)感染症の経験が無い所にいきなり志村ケンさんの感染症死で感染即死に至るとの恐怖感に慄え、ワクチン接種に不安を抱きながらも一塁の安堵を得ることができた。

(2)感染症の変動経過

2020年新年早々：第1波（R2.1～3）月、第2波（7～9）月、2021年：第3波（12～R3.3）月、第4波低調（4～6）月、第5波（7～9）月、2022年：第6波（R4.1～3）月、第7波（R4.7～9）月。第3波は最強の猛威を振るい医療崩壊、保健所崩壊、学校崩壊、日常生活崩壊と史上最悪の様相を呈した。日本では新型コロナ感染症は当初2類相当で国が対応してきたが、令和5年（2023）5月から個人対応となり2類相当⇒5類感染症へ移行。感染症にはコロナウイルスの変異等により感染者数のピーク変動が有り以下のような経過を辿っている。5類に移行してから感染状況データは全数把握から定点把握に移行した。全数把握されていた2023年5月までの感染者数累計は≒3400万人、死亡者総数≒7万5千人。

(3)感染症発生源調査と法整備

新型コロナ感染症（COVID19）の発生源は中国武漢であり世界保健機構（WHO）が調査を申出るも中国側は許可せず。武漢には中国4箇所ある最も重要な細菌兵器研究所が有るからと言われる。最初はコウモリ、次に竹ネズミ、現在は狸が発生源ではと言われるが不詳。新型コロナパンデミックは戦争状態に近い緊急事態であるが日本国憲法には有事体制条項が無いので抜本的な感染症研究体制強化と同時に改憲が必要。例えばロックダウンを法的に定めて個人情報入手できるようにして感染予防管理の強化。病院のベッド数は他国よりも遥かに多いが個人病院の協力が得られずベッド数が足りない等を改善して医療崩壊を防止する。

(4)感染症の研究体制強化と治療薬開発

今回の反省を踏まえて感染症研究体制の強化と抗治療薬開発に国レベルの開発体制充実が必要である。細菌等微生物に係る医学分野は北里柴三郎博士、野口英世博士等の活躍で日本が世界の最先進国であったはずなのに感染症予防国産ワクチンは国産は無く米国からの輸入に頼ざるを得なかった。今後、感染者の抗治療薬開発も含めて一流技術国に成長して欲しい。これ等の成果が国民病である花粉症・蕎麦等各種アレルギー治療薬の開発にもつながる事を期待したい。

(5)家庭内感染防止の困難さ

会社・職場・遊技場等でクラスターが発生した場合の対応は組織が対応してくれますので余り問題ないが、感染経路として一番多い一般家庭内での感染防止は難しい。大家族の場合、感染しても無症状の若者から老人への感染も多いのではと危惧される。感染者と共同生活する場合、感染予防策は難しいのではと予想されるので、2週間程入院できる感染者専用の宿泊施設があると安心です。家庭内感染も個人対応に任せで、公的な受入れ体制が確立できていると有難い。

(6)感染症が地球環境を救う

不謹慎な話ですが、地球環境問題解決の一番貢献者はコロナウイルスでノーベル賞に「地球環境浄化賞」が有れば新型コロナウイルスが筆頭候補に挙がるかも。何故なら地球上の環境汚染の筆頭原因が人間生活に有るから。人類がこの地球上に70億人も居る事が最大の環境汚染源ではないでしょうか。適正人口は解りませんがコロナウイルスを野放しにして自然摂理に任せて人口半減となれば環境浄化は大きく前進する。若者・健常者が生き残り高齢者・健弱者が先立つ事が自然の摂理として正解かも知れない。聖書に言う「人類の原罪はアダムとイブが楽園でリンゴを食べたから」ではなく「動物は空気と水だけでは生きられない」事が原因である。新型コロナウイルス禍で企業活動範囲が縮小されると環境汚染物質の発生が低減されて地球環境は回復に向かうことになる。古代のように地方で田畑を耕して自給自足生活に戻ること環境負荷低減が達成できるかもしれない。

2度目の会計は？

会計専任幹事 鈴鹿 絹代

もうすぐ今年度期末決算の時期がくる。昨年3月下旬、突如会計担当を依頼された。今回は2度目の会計である。1度目は2019年4月から始まり、前任者に手順を教えていただき順調に進んでいた。

ところが、翌年(2020年)1月中旬、日本で最初の新型コロナウイルス感染者が発生、2月には大型クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号で多くの感染者が確認された。自然と文化科でも休講が検討され始め、領収書も時には郵送で受け取り、立替金も渡しづらい状況となった。

3月には期末決算があり、そのあと会計監査も控えている。前任者と会うこともできず、電話でも思うようにならない。



さて、どうする？ 困った～。手元に保管してあった前年度の期末決算書、会計監査書とにらめっこしながら、1人でてんやわんや。

4月になり、当時、会計監査役だった藤田さんに何度かメールでご教示いただき、書類は宅配便で受け渡しをした。そうやって、この年度の会計監査が無事終了した。

「証憑書類」という言葉を知ったのもこのときである。初めて見たときは読めなかったし意味も分からなかった。公開講演会でたまたま藤田さんとお会いするときがある。

そんなとき、「鈴鹿さん、また、会計やっているの？」とあきれながらも笑顔で労ってくださる。振り返ってみれば、懐かしい思い出。

さて、2度目の会計はどうか。

収支表は新しいフォーマットが導入され、入力が楽ちん。収支表への入力と同時に別表の科目別集計表にも自動的に入力されていく。これによって転記ミス発生の心配はなくなった。

本部提出書類にも少しの変化があった。インボイス導入により、全ての領収書はインボイス対応とインボイス対応なしの区別をして、それぞれ集計することになっている。

書類の提出や各種書類へのサイン（押印）等、科の皆さんのご協力に改めて感謝しています。

班長の思い出

4班 奥 久美子

班長になって早いものでもう1年がたとうとしています。

4月。私に班長が務まるだろうかという不安を抱えてのスタート。初めての班会議では決めることがいっぱいあり、頭の中が真っ白でしたが、皆さんのご協力で次々と決めることができてホッとしました。

5月。初めての班別活動。立命館大学いばらきキャンパス内の里山観察と川端康成記念館へ。道中の和気あいあいとした雰囲気は班の皆さんのあたたかさを感じました。

その後も7月旧甲子園ホテルの見学。11月万博日本庭園と民博。1月咲くやこの花館へ。先輩方が案を出してくださり進めることができました。ただ半日の班別活動は、時間の制約もあるので行き先を決めるのが難しかったです。

活動中にも、いろいろなことがあり…反省することが多かった1年でしたが、4班の皆さんに助けていただき何とか完走できそうです。

ありがとうございました。これからもどうぞよろしく願いいたします。



今回は 早春に咲く はかない命、スプリングエフェメラルを 特集しました



アズマイチゲ (篠山追手神社)



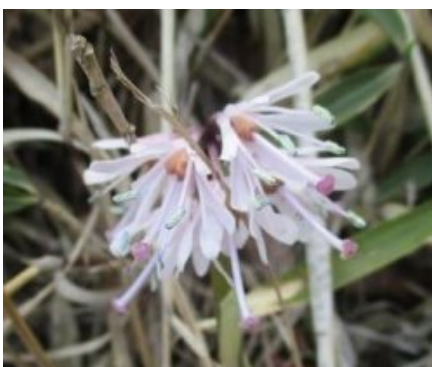
イチリンソウ (京都 西山)



カタクリ (大和葛城山)



キクザキイチゲ (花明山植物園)



コチョウショウジョウバカマ
(大和葛城山)



ショウジョウバカマ (根尾谷)



スハマソウ (花明山植物園)



セツブンソウ (篠山追手神社)



ニリンソウ (吉野)



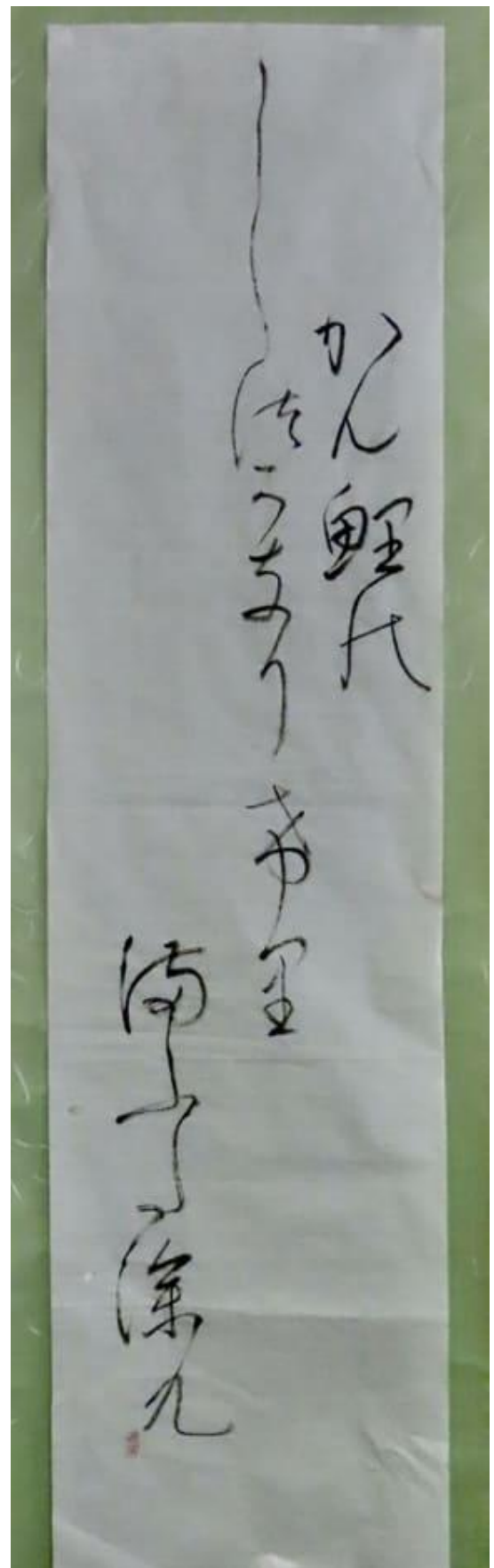
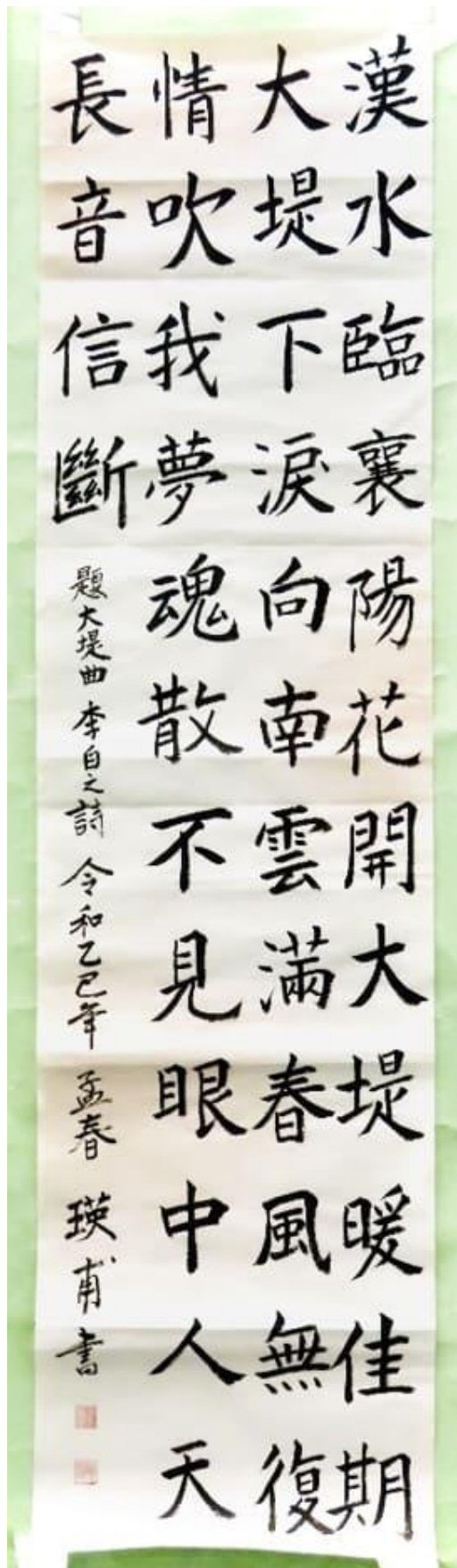
バイカオウレン (大宮谷)



フクジュソウ (ポンポン山)



ミスミソウ (箕面)



シルクロードの仏像

3班 山下 勝弘



来年度から、絵画・書道コーナー、写真コーナー、短歌・俳句・川柳コーナーの自由投稿を受け付けます。紙面の都合上掲載が遅れることもありますが、我と思わん方は奮ってご応募ください。

編集部

写真コーナー

ささやかな癒しの時間…たまにはシダ・コケ・地衣類などはいかが？ 4班 福島 いずみ



ハリガネゴケ 20250108 枚岡公園石垣の間に



コゴメゴケ 20250108 枚岡公園手すりの上に



帽子が可愛いタチヒダゴケ 20250108 枚岡公園



オオシラガゴケ 20241216 湖南アルプス休養林



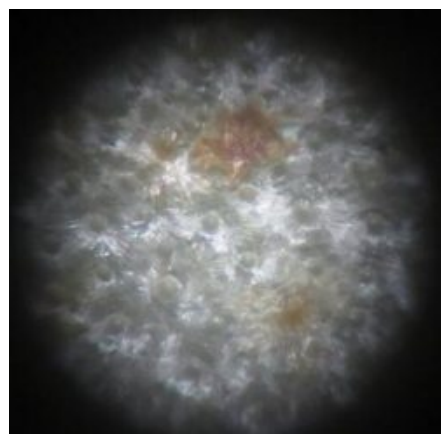
ヒメジョウゴゴケ (地衣類) 20241216 湖南アルプス



ミズスギむかご (シダ) 20241129 星田園地



見つけたマツバラン (シダ) 20241129 星田園地



ツルグミ鱗状毛 20241129 星田園地



乾いたホソバオキナゴケ 20241212 交野山



ホソバオキナゴケ 20241216 湖南アルプス休養林



トヤマシノブゴケ 20241216 湖南アルプス休養林



ヒモヒツジゴケ 20241212 交野山



エソスナゴケ 20241216 湖南アルプス休養林



美しいエソスナゴケ 20241230 大河原



鞭状の枝を持つコムチゴケ 20250114 清水谷



鋸歯があるムチゴケ 20241216 湖南アルプス休養林



コアカミゴケ 20241216 湖南アルプス休養林



むかごを持ったコモチシダ 20241223 くらんど園地



背葉が反り返るヒメクラマゴケ 20241226 九度山



オオバノアマクサシダお洒落な幼葉 20241226 九度山



素晴らしい群生のホウビシダ 20241226 九度山



胞子を出した後のタマゴケ 20241230 大河原



トヤマシノブゴケ 20241230 大河原



ソーラスをつけたウチワゴケ(シダ)20241230 大河原



ウスツメゴケ（地衣類） 20250114 清水谷



クルマシダ群生に感動 20250102 交野小久保川



珍しいオシャグジデンダ 20250114 清水谷



美しいネズミノオゴケ 20250114 清水谷



(ヒメ)クジャクゴケ 20250120 奥槇尾山



フデゴケ 20250124 鶴見咲くやこの花館展示物



ウチワゴケ（シダ） 20250127 くろんど園地



(トサカ)ホウオウゴケ 20250203 交野小久保川

2班 山上 恵子

短歌

○武力にて領土奪おうとする国に民主主義
は今窮地に在りぬ

俳句

○巫女よりの手渡し節分の小餅

○命綱つけて大勢の雪下ろし

○蠟梅のお向かい同士が競い咲く

川柳

○他人は酒私は医者へ梯子する

○ひっくり返し掛ける算数覚えてる

○大太鼓ドンと一つで門が開く



3班 宮澤 富美雄

川柳

○紅白も 半分寝てて 年が明け

○感激も 感傷もなく 年が明け

○正月は 温か炬燵 ひとり酒

○孫の守り 覚えてしまった ドキンちゃん

○孫去んで すき間だらけの 家の朝



なんとか無事に 64 号を完成することができました。2024 年度の最終号です。

来年度からはまた新たな気持ちでよりよい編集ができたかと願っています。

(編集等に対するご意見をお寄せください⇒ tsukasha@mac.com)